

森林生態学の立場から野生動物管理を試みる

教員名：藤木 大介

連絡先メールアドレス：fujiki[atmark]wmi-hyogo.jp

◎ 研究内容

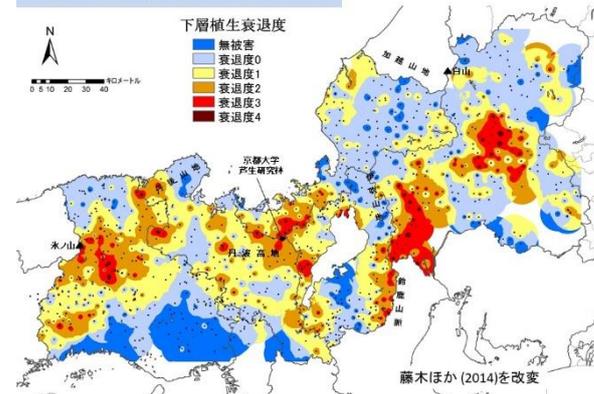
近年、増えすぎたニホンジカによって日本各地で森林植生の深刻な衰退が報告されています。シカから森林生態系を保全するためには、まず被害を把握し、被害とシカの生息状況の関係を明らかにした上で、管理目標を定める必要があります。さらに実際の管理施策においてはその効果を科学的に評価し、必要に応じて柔軟に計画を修正していく必要があります。シカ問題の解決には研究者が行政と連携して、このような役割を積極的に果たしていくことが必要だと考えています。

シカ問題の解決最優先で研究を進めていますが、スタンスとしては、野生動物とその生息地である森林との関わりを明らかにすることで、森林管理と野生動物管理の橋渡しをすることを念頭にシカ以外の研究も進めています。

■ 落葉広葉樹林域 (兵庫県本州部) における衰退評価



関西6府県での広域評価



◎ 主な研究業績

- 1) 藤木大介 (2017) 兵庫県におけるコナラ二次林の維管束植物種数にニホンジカと常緑広葉樹林化が及ぼす負の影響の空間変異. 保全生態学研究 22: 299-310.
- 2) 藤木大介, 岸本康誉, 内田圭, 坂田宏志. (2014). 兵庫県における森林生態系保全を目的としたニホンジカ対策. 水利科学 57(6): 26-50.
- 3) 藤木大介, 酒田真澄美, 芝原淳, 境米造, 井上巖夫. (2013). 関西 4 府県を対象としたニホンジカの影響による落葉広葉樹林の衰退状況の推定. 日本緑化工学会誌, 39(3), 374-380.
- 4) 藤木大介, 岸本康誉, 坂田宏志 (2011) 兵庫県氷ノ山山系におけるニホンジカ *Cervus nippon* の動向と植生の状況. 保全生態学研究 16(1): 55-67.
- 5) Fujiki D, Kishimoto Y, Sakata H (2010) Assessing decline in physical structure of deciduous hardwood forest stands under sika deer grazing using shrub-layer vegetation cover. Journal of Forest Research 15: 140-144.